

RIWKAKANT

リウカカント



リウカとは、アイヌ語で「橋」
カントとは「宇宙」を意味する

アイヌには、古来より口承で伝え続けてきた、ウポポと呼ばれる歌があります。
その歌をシンセサイザーやコンピューターという現代のツールを使用し、新たなアイヌの音楽を作り上げたのが、リウカカントです。
それはまさに太古と現代が織りなす時空間のコラボ。
アイヌの歌が本来宿している普遍性や宇宙観が、時を越えて今、新しい姿でよみがえります。

<http://riwkakant.blogspot.com/>



床 絵美 Toko Emi

北海道出身。阿寒湖畔で育つ。
幼少の頃よりアイヌ民族の唄、舞踊や伝統楽器ムックリなどに慣れ親しむ。

- 1997 トンコリ奏者OKIらと共にMAREWREW(マレウレウ)のヴォーカリスとして音楽活動を開始。
- 1998 アイヌ文化アドバイザーとして、全国各地にて、ムックリ、唄などのワークショップ、講演を行う。
- 2004 TV番組「NONFIX」出演 OKIのアメリカ・ツアーに参加
- 2005 オーストラリア「WOMAD」音楽祭に参加
「竹は祈り、語り歌う」に出演 主催(日本文化藝術財団)
- 2006 OKIのフランス公演に参加
- 2007 カフェスローにてソロライブ(ゲスト:千葉伸彦)
初のソロ自主制作CD「UPOPO ウポポ」を発表。(プロデュース:海沼武史)
トンコリ奏者・千葉伸彦とのデュオCD「HUNTER ハンター」を発表(プロデュース:海沼武史)
高尾「トゥーマイ」にてソロライブ(ゲスト:千葉伸彦)
- 2008 TV・NHK BSハイビジョン番組「日本人の知らない日本へ/アイヌ・民族の誇りを歌に」

(参加アルバム)

OKI 「NO-ONE'S LAND」 「DUB AINU」、安藤ウメ子「UPOPO SANKE」、角松敏生「INCARNATIO」

海沼武史 Takeshi Kainuma

1962年 東京に生まれる。

- 1981 ライブハウス「仏陀」(長野)にて弾き語りコンサート
- 1982 一年間、ニューヨークで生活する。
- 1983 高円寺「稲生座」にて弾き語りコンサート
- 1986 この頃より、実験音楽の制作を開始する。
- 1988 高円寺「稲生座」にて隔月コンサート
インプロビゼーション・バンド「AWANの会」にボーカル&ギタリストとして参加
様々なミュージシャンとのコラボレーション・ライブ。
- 1989 大倉山記念館(横浜)にてコンサート
- 1990 自主制作CD「時空の破片」を発表する
- 1991 テレビ番組「Yellowstone Symphony-Winter」(カナダ)・音楽担当
- 1992 ギャラリー「ケルビーム」にて月1度のコンサート
- 1996 再び渡米。ニューヨークにて7年半の間、生活する。
- 2005 ドキュメンタリー映画「BEYOND SIGHT」(予告編)・音楽担当
- 2007 アイヌの唄い手・床絵美と「Ri wkakant リウカカント」ユニット結成

<http://takeshikainuma.com/>

アイヌの歌の魅力について

アイヌの歌は、基本的に4つの音階とそのオクターブだけで構成されていますが、極端にシンプルなこの形式と構造内での音の運動、旋律の反復の中に、眼もくらむような豊富な色彩が、譜面には表せないほどの無限の音色が隠されています。
この、そぎ落とすだけそぎ落とされたアイヌ歌の響きの奥に、「人間にとって歌とは何か? “うたう”とは一体どういうことか?」
その答えを、実は人間にとっての歌本来の意味を、姿を、僕は見出したような気がしました。
無文字社会であったアイヌ民族にとって、「音楽・ミュージック」という概念はなく、彼らにとって「音楽」とは、「唄と踊り」のことであり、また「儀式」そのものの謂いであり、そこには演奏者と鑑賞者の区別はなかったことでしょう。
命あるすべてのものが演者であり聴者である豊かな自然そのものの姿、アイヌの歌とは、こういった本然の生活様式を基盤としていたからこそ、この大地から芽吹く野草や樹々、山や川や空を住処とする生命たちのように、私たちの生活を彩るカムイ(神の意)への捧げ物とし、現代曲のような個人的な告白、心情吐露に陥ることなく、民族の歌として口承され、今なお歌い継がれているのだと思います。